

滋賀県文化審議会評価部会第1回会議 議事録概要

- 1 日 時 平成 23 年 6 月 20 日 (月) 10:00 ~ 12:00
- 2 場 所 滋賀県大津合同庁舎 7B 会議室
- 3 出席者 委員 : 東委員、河島委員、直田委員、富永委員、中川委員
(5 名出席)
- 講師 : 真鍋講師
事務局 : 多胡次長、西川課長、片山参事ほか
- 4 議 題 (1) 評価部会の審議内容や今後の進め方について
(2) 滋賀県文化振興基本方針の評価指標の検証について
(3) 新たな評価指標の検討について

4 議事録概要 以下のとおり

次長挨拶

滋賀県文化審議会評価部会の設置について
部会長の選出について

中川委員が互選により選出された。

基調講演 真鍋講師

文化事業の社会的インパクト評価をめぐる方法論的な議論

- 国際交流基金の事業評価調査の事例 -

議題

(1) 評価部会の審議内容や今後の進め方について

委 員

- ・文化振興基本方針の目標としては最終的には文化で県民に住みよい滋賀ということで、評価項目はそちらに重点を置かれていると思うが、講演の内容は国が他の国でやっていることに対してどれくらい理解が得られているかという話で少し違う位置づけになっているのではないか。

委 員

- ・評価部会で今年度中に実際に評価事業を行って、報告書をまとめるのか。評価部会において具体的に何をしていくのか明確になっていない。

事務局

- ・評価部会については文化振興基本方針に定めている評価指標の結果に対する御意見を頂いて効果の検証をさせて頂きたい。また、新たな指標の御意見があれば今の指標にプラスしていきたい。さらに県全体の文化施策の効果の測定ができれば

と考えている。

- ・講演を頂いたのは、県として文化振興基本方針の期間で大きな目標としている滋賀県の文化力が高まり地域が元気になる、そういう姿を評価の指標で表していきたいと考えているところから。

委員

- ・評価指標で数字を挙げているのは意味があると思うが、21年度の数字と27年度の目標を挙げておられるが目標を設定された根拠を聞かせて頂きたい。印象としては目標設定が全体として低いのではないか。また、評価の方法の洗練に関わる議論もしていただければ。

(2) 滋賀県文化振興基本方針の評価指標の検証について

(3) 新たな評価指標の検討について

委員

- ・例えば文科省の調査で全国平均が出ている指標があるので時間軸での評価と同時に可能なものについては空間軸で全国平均との比較をすれば滋賀県の特徴が分かるのではないか。

委員

- ・文化の場合、AをやるとBが方程式のように一義的に出てくるということはありません。文化芸術分野ではインプットに対してアウトプットが幅を持っている。このアザース(幅)をどう捉えるかを議論する必要があり、それが指標の読み方、目標の設定の仕方にも関わってくるのではないか。
- ・滋賀県の文化は県だけでやっているわけではなく、市町の取組を入れていかないと全体が見えないのではないか。市町あるいは民間がやっていることを含めて議論しないといけない。
- ・目標については、トレンド志向だけでなくどの程度の数字が必要といったビジョンから導かれるような整理をする必要もある。また、指標の読み方を考える必要があり、指標を施策に活かさないといけない。

委員

- ・評価指標は常にモニタリングしていくべきではあるが、これをもって評価とはいえない。評価指標から今後の見通しや改善点がほとんどわからない。
- ・評価事業プロジェクトを本格的に立ち上げないと27年度になっても何もわからない。
- ・例えば重点施策を多く実施しているびわ湖ホールの自己評価を基に委員会で評価する方法がある。あるいは専門家チームを組んで特定施設等の事業を選んで外部評価という形で実施するのはどうか。
- ・評価疲れについて、評価事業はあまり過度にならない程度に事業や施設といった

特定のものについて実施するべき。

(4) 県の文化振興に対する効果の調査研究について

部会長

- ・ 審議会として評価指標をさらに掘り下げた有効な評価が出来ないかという負託を受けたということ。既存の評価指標を変える、もっと有効な評価指標を出すのほうがいいが説得力とコストは意識せざるを得ない。
- ・ 今後の議論をしていく上で大切なことはアザーズをどのようにして評価指標に取り組んでいくのかということ。
- ・ 施策に対する利用者の満足は、ユーザーの満足、専門家の満足などそれぞれ異なる。いかに精査して公平性を図るのかという議論をしていかないといけない。
- ・ 調査研究については次回以降に本格的に審議していきたい。

その他

委員

- ・ より豊かな滋賀の文化を作ることが最終的な目標だとすれば現状では物足りないので、特定事業等の評価に取り組んで頂きたい。

委員

- ・ 新しい指標を設定するという必要だが、文化行政について総合的に考えていくことも必要ではないか。

部会長

- ・ 現実に行政の世界で使われている評価の実態は評価の概念がばらばらだ。施策の有効性やある価値観の社会的変化ということを評価しようとする価値概念が特定されていないと出来ない。

(以上)